

関門地域の観光の現状と課題 —地域外住民からの意識に着目して—

北九州市立大学地域戦略研究所 南 博

1. はじめに

(1) 調査研究の背景

現在、日本では国を挙げて観光振興政策に力を入れている。2006年に成立した観光立国推進基本法では「観光は21世紀における日本の重要な政策の柱」として位置づけられており、2008年には観光立国推進のための組織として、国土交通省の外局である観光庁が設置された。また、2014年に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、地域産業の競争力強化のために観光地域づくりや広域観光周遊ルート形成、あるいはその情報発信の重要性が位置づけられている。観光政策の充実により、地域資源を活かして域内外から多くの交流人口を呼び込み地域経済を活性化させ、雇用の増加や定住人口の確保につながることを期待されているのだ。

関門地域においては、関門海峡という希有な資源も活かして、北九州市と下関市の官民が連携して様々な観光政策や個別事業に取り組んでおり、民間による多様なイベント等も多数開催されている。2007年から2010年まで活動した「関門地域の未来を考える研究会」¹⁾においても、観光は、国土形成計画への対応、行政制度のあり方、地域ブランド構築と並ぶ重要な話題として取り上げられている。行政間の連携について見ても、例えば2014年度に総務省の「新たな広域連携モデル構築事業」として北九州市・下関市が取り組んだ連携事業においても、圏域全体の経済成長のけん引のための施策として「関門地域連携による訪日観光客誘致」を位置づけ、観光地としての関門地域の魅力向上に取り組んでいる。また、両市がそれぞれ2015年度に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、北九州市、下関市ともに交流人口増に向けた柱に観光政策を掲げている。観光政策は、関門地域にとって最も重視されている取り組みの一つと言えよう。

観光政策の推進に際しては多様な論点があるが、観光の定義を観光庁の『観光統計』が定めている「目的を問わず非日常圏への旅行（目安として片道の移動距離が80km以上）」²⁾とすると、関門地域にとっては、北九州都市圏や下関都市圏以外の国内外の人々を関門地域に招き入れ、経済活動やレクリエーション活動等を行っていただくことが重要となる。その際、関門地域のどのような資源を活用するかという点も重要であるが、合わせて、招き入れる対象となる地域外住民の、関門地域に対するニーズの把握や、関門地域に対するこれまでのアプローチの状況等を把握することは極めて重要な事項の一つと考えられる。

(2) 先行研究の状況

地域外住民の下関市や北九州市に対する観光動態に関しては、下関市については山口県『山口県観光客動態調査』、北九州市については北九州市『北九州市観光動態調査』がある。

しかしながら、これらは各観光資源ごとの来場状況等は把握できるが、個々の人々の観光動向や、関門地域に対する観光ニーズ、イメージ等について把握することはできない。

また、関門地域共同研究会においては、様々なテーマに関し関門地域の住民や事業者を対象としたアンケート調査は多数実施しているが、地域外住民の関門地域に対する観光動向等に関する調査研究は行われていない。

北九州市では観光資源に対する認知度・興味度・推薦度を把握するための市出身者で市外在住者も対象とした北九州市（2013）「北九州市内在住者および出身者に向けた観光資源調査」や、市外の有識者等を対象とした都市イメージ調査等は実施しているが、これらは北九州市という地域単位を前提に実施されており、また観光動向に関する詳細な把握は行われていない。

その他、学術研究においても、北九州市等に関する都市イメージの研究などは散見されるが、関門地域という単位で観光に特化した内容では実施されていない。今後の関門地域の観光政策を考える上で、基礎的な検討材料が不足した状況にあると考える。

(3) 研究目的

こうした点を踏まえ、本研究においては、今後の関門地域における観光政策を検討するに際しての基礎資料を得るため、国内他都市の市民の関門地域に対するイメージや観光行動の実態等を把握することを目的とする。

なお、現在、関門地域のみならず国全体においても外国人観光客誘致（インバウンド）に特に力を入れようとしているが、外国人を対象とした研究は別途行うこととし、本研究においては国内他都市の市民を対象とする。

2. 地域外住民に対するアンケート調査の実施概要

(1) 調査手法および調査対象

地域外住民に対する幅広いアンケート調査の手法として実施可能なものとしてインターネット調査が挙げられる。学術研究におけるインターネット調査の有意性を巡っては様々な議論があり、「登録されたモニターの回答は、調査対象とすべき母集団（本研究の場合、一般的な国民）の意見を代表していると証明できない」、「回答者に偏りが生じやすい（高齢者が少ない等）」などの指摘が行われている。しかしながら他に代替可能な手法がないため、本研究ではインターネット調査を用いることとし、結果を考察する際には「本調査結果は必ずしも一般的な国民の意見の傾向と一致することが証明されるものではない」点に留意することとする。

調査対象としては、関門地域の観光やイメージに関する全国各地の相違等を把握する観点から、北海道・東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方、中四国地方、九州地方に位置する政令指定都市の中から、それぞれ仙台市、横浜市、名古屋市、大阪市、広島市、熊本市の6市の住民を対象とする。政令指定都市住民を対象とした理由は、インターネット

調査のモニター登録をしている住民の人数の確保しやすいことによる。調査対象の年齢は、自ら主体的に観光行動等を取ることが容易になるとと思われる20歳以上を対象とすることが妥当と考えられる。

こうしたことから、本研究におけるアンケート調査の対象は、仙台市、横浜市、名古屋市、大阪市、広島市、熊本市の6市の20歳以上の市民のうち、民間インターネット調査会社が管理する調査モニターへ登録している市民を対象とし、各市概ね300サンプルの回収を目指して調査を実施する。

(2) 設問

調査目的を踏まえたうえで、大きく「関門地域の認知度」、「関門地域への訪問および観光行動の実態」、「関門地域への観光等による訪問の意向」、「関門地域に対するイメージ」および「属性」に関する設問で構成した。設問の一覧を表1に示す。

なお、「関門地域の認知度」については、関門地域がどの地域を指すのか回答者には敢えて明示しない形で尋ね、その設問群の回答後に、本調査における関門地域は下関市、北九州市と定義することを回答者に明示する形式を用いた。

表1 本研究におけるアンケート調査の設問一覧

分類	番号	設問	備考
関門地域の認知度	Q1	日本国内に「関門（かんもん）地域」と呼ばれる地域があることをご存じですか？	
	Q2	「関門地域」に当てはまる地域はどこだと考えますか。県や市町村などの名称を用いながらご記入ください。（明確な正解のある質問ではありません。お考えになるままお答えください。）	自由記入式
	Q3	あなたは、山口県下関市をご存じですか。	
	Q4	あなたは、福岡県北九州市をご存じですか。	
この段階で「関門地域」を下関市、北九州市と定義することを回答者全体に明示			
関門地域への訪問および観光行動の実態	Q5	※Q3、Q4で「下関市または北九州市に行ったことがある」回答者を対象 目的別の訪問回数（おおまかな数でかまいません）。下関市と北九州市の合算でお答えください。ただし、一度の訪問で下関市と北九州市を同時に訪れた場合は「1回」としてカウントしてください。	「仕事・出張」、「観光」、「スポーツ観戦・観劇・文化鑑賞」、「親族・知人訪問」、「その他」、「覚えていない」の各項目別
	Q6	※Q5で「観光目的の訪問あり」の回答者を対象 あなたが過去に関門地域に来た際の観光目的について選んでください。	
	Q7	※Q3、Q4で「下関市または北九州市に行ったことがある」回答者を対象 関門地域内で宿泊した経験がありますか。	
	Q8	※Q3、Q4で「下関市または北九州市に行ったことがある」回答者を対象 一度の観光や出張において、下関市と北九州市の双方に行ったことはありますか。	

	Q9	<p>※Q3、Q4 で「下関市または北九州市に行ったことがある」回答者を対象</p> <p>関門地域に行った時に利用した主な交通手段をすべて選んでください。</p>	
	Q10	<p>※Q3、Q4 で「下関市または北九州市に行ったことがある」回答者を対象</p> <p>関門地域に行った時に、併せて訪れたことのある周辺都市・観光地をすべて選んでください。</p>	
	Q11	<p>※Q3、Q4 で「下関市または北九州市に行ったことがある」及び「住んでいたことがある」回答者を対象</p> <p>関門地域の観光資源で、行ったことがある場所をすべて選んでください。</p>	
関門地域への観光等による訪問の意向	Q12	関門地域の観光資源で、今後行ってみたい場所をすべて選んでください。	
	Q13	今後、関門地域（下関市、北九州市）に観光で行ってみたいと思いますか。	
	Q14	<p>※Q13 で「あまり行ってみようとは思わない」および「行ってみようとは思わない」回答者を対象</p> <p>関門地域に観光で行ってみようと思わない理由は何ですか。主な意見を2つまで回答してください。</p>	
	Q15	北九州市の中心部と下関市の中心部の間は、関門海峡を挟んでいますが、非常に近い距離にあります。※電車で約15分（小倉駅～下関駅）、船（門司港～唐戸）で約5分、徒歩（関門人道トンネル）で約15分。仮に北九州市に観光や仕事で行った際、下関市までついで行ってみようと思いますか。あるいは下関市に行った場合、北九州市までついで行ってみようと思いますか。	
	Q16	北九州市または下関市に観光に行く計画を立てる際、現地で時間的な余裕があると仮定します。どのような条件があれば、関門海峡を渡って対岸の下関市または北九州市に「ついで行ってみよう」と思いますか。最も重要と思うものを2つまで選んでください。	
	Q17	北九州市では現在、小倉駅のすぐ近くの市街地中心部に、サッカー・ラグビーなどの球技やコンサート等の各種イベントが開催可能な新しいスタジアム「北九州スタジアム」を建設中です。2017年春から利用可能となる「北九州スタジアム」に、行ってみたいと思われませんか。	
	Q18	関門地域（下関市、北九州市）で以下のスポーツイベントが開かれるとします。あなたが参加したい、あるいは観戦したいと思うスポーツイベントをすべて選んでください。	
	関門地域に対するイメージ	<p>Q19</p> <p>それぞれの言葉（形容詞）について、関門地域のイメージに当てはまるものをお答えください。</p> <p>① 新しい / 古い</p> <p>② にぎやかな / 寂しい</p> <p>③ 明るい / 暗い</p> <p>④ 快適な / 不快な</p>	対になる各形容詞群について、5段階の尺度から近いイメージを選択

		⑤ 親しみのある / よそよそしい ⑥ 安全な / 危険な ⑦ 美しい / 美しくない ⑧ 変化に富んだ / 単調な ⑨ 特色豊かな / ありきたりな ⑩ 便利な / 不便な ⑪ おもしろい / つまらない ⑫ 住みやすい / 住みにくい ⑬ 開放的な / 閉鎖的な ⑭ 発展的な / 衰退的な ⑮ さわやかな / さわやかではない	
属性	Q20	あなたのご趣味について、当てはまるものを3つまでご回答ください。	
	Q21	性別、年齢、職業等、居住市	

(3) 調査実施概要

アンケート調査の実施概要を表2に示す。各都市とも300サンプル以上回収し、都市間比較は妥当に実施できるものとみなす。

表2 アンケート調査の実施概要

調査名	観光に関するアンケート ※認知度把握の設問があるため、タイトルからは敢えて「関門地域」を外して実施
調査手法	インターネット調査
調査対象	仙台市、横浜市、名古屋市、大阪市、広島市、熊本市の20歳以上の市民のうち、マイボイスコム(株)が管理・利用する調査モニターへ登録している市民
実施期間	2016年1月20日～1月25日
有効回答数	1,916サンプル(6市合計) 仙台市321サンプル、横浜市316サンプル、名古屋市320サンプル、大阪市321サンプル、広島市317サンプル、熊本市321サンプル

(4) 回答者の基本属性

回答者の基本属性について、6市別の性別を図1、年齢を図2、職業分類を図3に示す。年齢については、インターネット調査の特性を反映して40代・50代の回答者が多い一方で60代・70代以上の回答者は比較的少ない。

なお、本調査では回答者には年齢を数値入力することを求めており、それに基づき算出した回答者の平均年齢は49.4歳となる。

また、回答者の趣味(3つまで複数回答可)について尋ねた結果を表3に示す。本設問の主たる内容と密接に関わる「旅行」が趣味の回答者は熊本市を除いて40%前後であり、最も回答率が高い特徴がある。熊本市においても31%が旅行を挙げており、比較的多い。一方、「スポーツ観戦」については各市10%台となっている。

次章でのアンケート調査結果の考察においては、回答者合計および居住市別の集計を基本的に用い、設問内容によっては年齢・性別・趣味、あるいは他の設問の回答によるクロス集計を用いることとする。

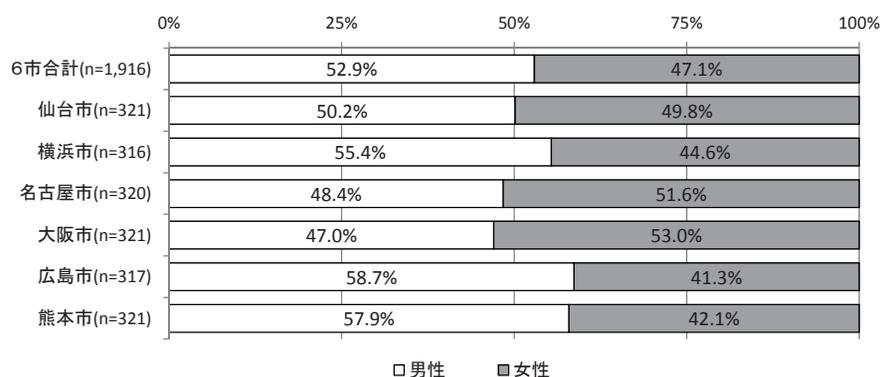


図1 回答者の性別

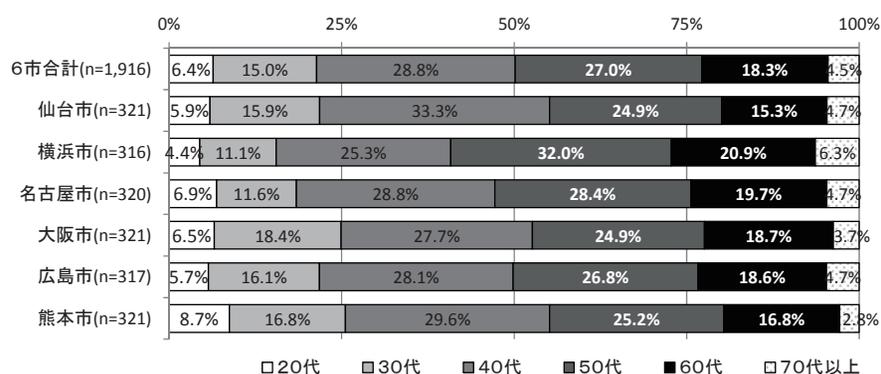


図2 回答者の年齢

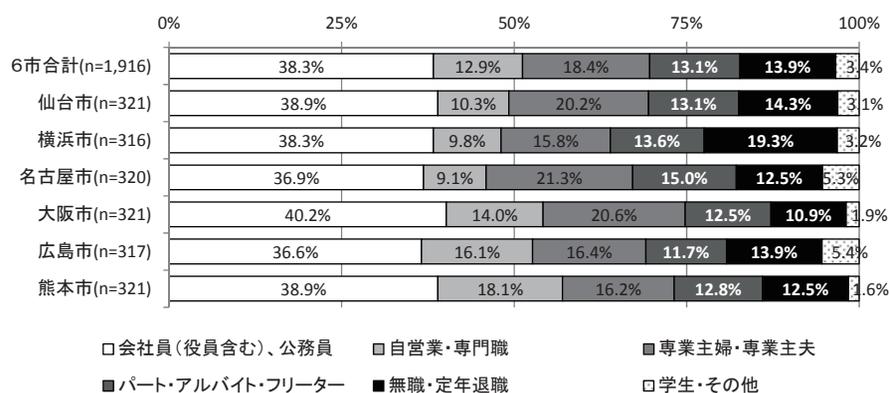


図3 回答者の職業分類

表3 回答者の趣味(3つまで複数回答可)

	回答者数(人)	Q. あなたの趣味について、当てはまるものを3つまでご回答ください。													趣味はない		
		テレビ・ラジオ・ビデオ・DVD観賞等	新聞・雑誌・読書	友人との交流、会話	家族回らん	食事	旅行	スポーツ実施	スポーツ観戦	芸術活動(音楽・演劇・美術・書道、陶芸、イラスト等)の実施	芸術観賞	買い物	おしゃれ(服装、メイクなど)	ペット飼育		インターネット	その他
6市合計	1,916	35.5%	20.0%	9.7%	13.4%	26.6%	38.7%	7.6%	14.1%	7.6%	11.1%	14.6%	6.2%	7.4%	31.0%	3.9%	6.3%
仙台市	321	37.1%	22.1%	9.3%	11.8%	24.6%	40.2%	6.2%	18.1%	8.1%	8.4%	13.4%	8.1%	29.0%	6.2%	5.0%	
横浜市	316	33.5%	21.5%	9.8%	12.0%	26.3%	42.1%	10.1%	10.8%	10.1%	13.9%	9.8%	4.1%	7.9%	27.2%	2.8%	7.0%
名古屋市	320	32.8%	19.1%	7.8%	13.4%	25.3%	40.9%	7.2%	10.9%	9.4%	12.8%	18.8%	7.2%	7.5%	29.1%	4.7%	6.3%
大阪市	321	32.4%	18.7%	9.0%	12.1%	29.3%	38.6%	8.4%	13.1%	7.5%	12.5%	14.3%	6.5%	6.5%	26.8%	2.5%	7.8%
広島市	317	35.6%	20.8%	11.4%	16.7%	25.9%	39.1%	5.4%	19.2%	3.8%	10.7%	13.2%	7.3%	7.3%	34.4%	4.7%	5.7%
熊本市	321	41.4%	17.8%	10.6%	14.3%	28.0%	31.2%	8.1%	12.8%	6.9%	8.1%	17.8%	6.2%	7.2%	39.6%	2.2%	6.2%

3. 関門地域の観光に対する地域外住民の意識、行動等

(1) 関門地域の認知度

① 「関門地域」と呼ばれる地域の存在の認知状況

「日本国内に『関門（かんもん）地域』と呼ばれる地域があることをご存じですか？」という設問に対する居住市別の回答結果を図 4 に示す。また、他の基本属性別の回答結果の抜粋を図 5 に示す。なお、この設問段階では、関門地域の本アンケートにおける定義や場所について、回答者には伏せた形で質問している。

回答者合計では、関門地域を「知っている」回答者は 43.5%であり、「知らない」とする回答者が過半数（56.5%）となっている。居住市別に見ると違いが見られ、広島市では「知っている」回答者が過半数（59.3%）となっている一方、仙台市、名古屋市では「知っている」回答者が 30%台となっており、下関市および北九州市から距離が遠い場所ほど認知度が低い傾向が見られる。

その他の基本属性別に見ると、性別では男性は過半数が「知っている」と回答しているが女性では「知っている」が 31.2%にとどまっている。年齢別では年齢が高いほど「知っている」とする回答が増加する傾向が顕著であり、60代・70代以上では「知っている」が過半数であるのに対し、20代では 24.6%と低い値となっている。趣味において「旅行」と選択した回答者においても「知っている」とする回答者は 53.4%であり、旅行好きからの認知度としては低いと言えよう。

関門地域の観光政策の検討を行う場合、多くの関与者は地域の在住・在勤者であるため「関門地域」という概念が一般的なものと捉えがちとなるが、地域外住民の半数強は関門地域という名称・概念を知らないということを前提として、政策検討を行う必要があると言えよう。特に若い世代や女性にはほとんど知られていないと認識する必要がある。

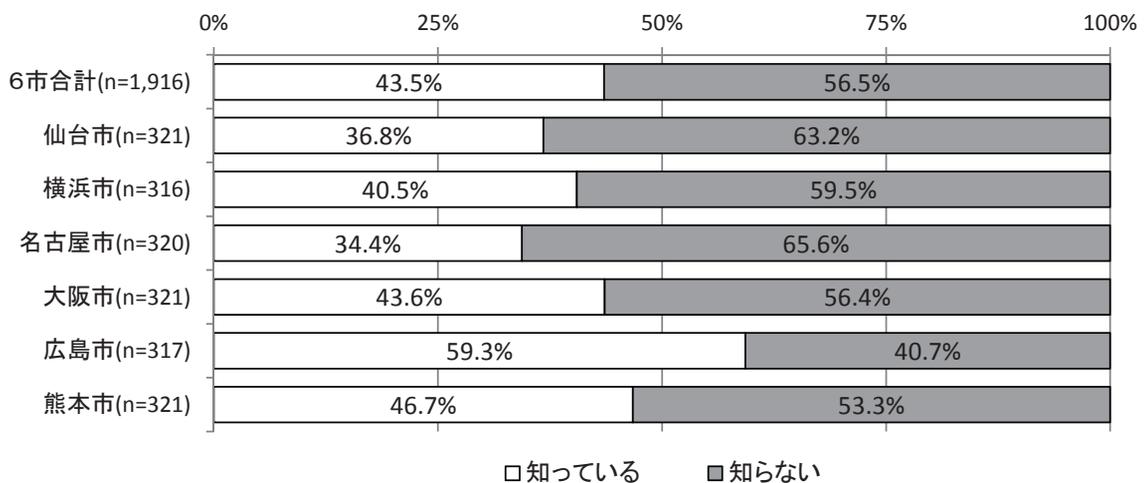


図 4 「関門地域」と呼ばれる地域の存在の認知状況（居住市別）

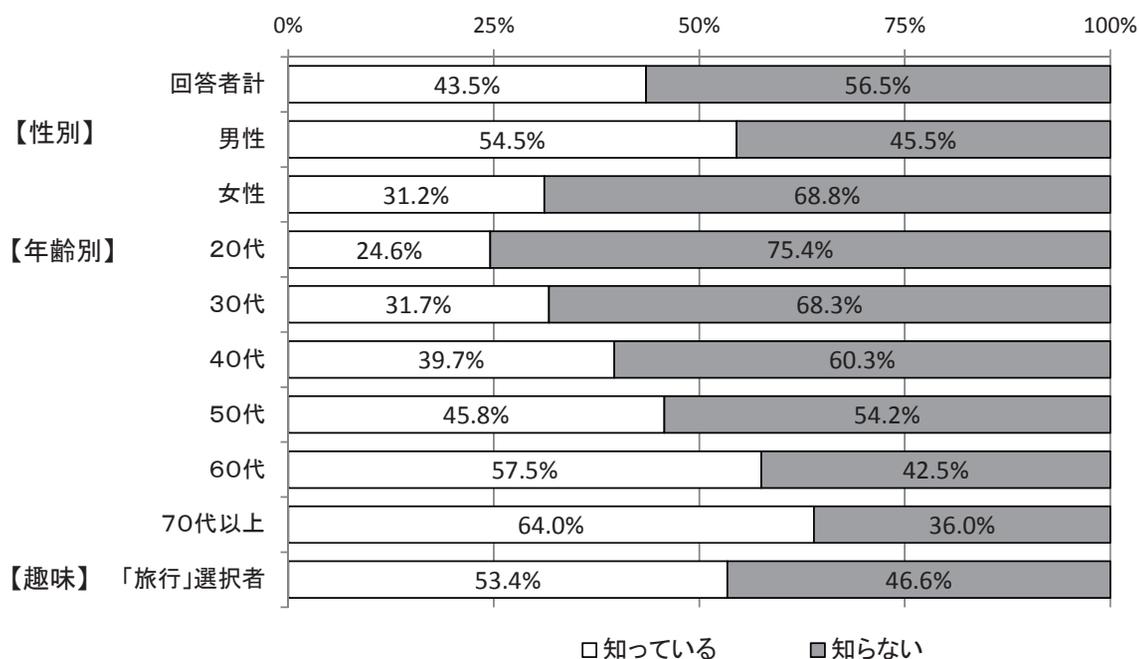


図5 「関門地域」と呼ばれる地域の存在の認知状況（居住市以外の主な属性別）

② 「関門地域」に当てはまる地域に関する認識

『関門地域』に当てはまる地域はどこだと考えますか。県や市町村などの名称を用いながらご記入ください。（明確な正解のある質問ではありません。お考えになるままお答えください。）という設問に対する居住市別の自由記入回答を集計した結果を表4に示す。なお、本設問においても(1)①と同様、関門地域の本アンケートにおける定義や場所について、回答者には伏せた形で質問している。

最も多いのは「下関&門司」との記述であり、次いで「下関（のみ）」、「下関&北九州」などが多く見られたほか、多岐にわたる記入があった。特に「下関」を含む記入は「北九州」という記入より多く、関門地域に下関市を含むという認識は広く行われていると考えられる。

一方、北九州市域については、「門司」という記述が「北九州」という記述より大幅に多い点が特筆できる。また、「門司区」という記述ではなく「門司市」と記した記述も49サンプルの回答者が行っている。このことから、「門司という地名の知名度は全国的に高い」こと、「北九州市のことを認識している人々の中において、関門地域とは海峡を挟んで市街地が下関市街地と対峙している門司に限定した呼称であると考え人が多い」こと、「1963年に門司市を含む5市が合併して誕生した北九州市という名称を、未だ認識していない人が一定数存在する」ことが可能性として指摘できる。

「関門地域」の範囲については、現在の行政間の関門連携においては「下関市と北九州市」を指すことが一般的であるが、例えば下関市民と北九州市民が互いに感じる地域間の親密度は北九州市内の各行政区単位で大きく異なっている²⁾。特に北九州市側について市域

全域を指すのか、市東部（門司区、小倉北区等）を中心の区域を指すのか、人によってイメージが異なっていることが本調査によって改めて確認された。

今後、関門地域として観光政策を推進したり、地域ブランドの普及を図る際は、「関門地域」として国民にイメージされている範囲が一定ではないことに留意が必要と言えよう。

表4 「関門地域」に当てはまる地域に関する認識（6市合計）

記述内容	回答者数(人)	全回答者に占める比率
「下関」&「門司（門司市を含む）」	260	13.6%
「下関」	150	7.8%
「下関」&「北九州」	114	5.9%
「山口県」&「福岡県」	73	3.8%
「関門海峡」	61	3.2%
「山口県」	51	2.7%
「北九州」	18	0.9%
「門司（門司市を含む）」	13	0.7%
「山口市」関連記述	10	0.5%
「九州」	7	0.4%
「本州と九州の間」	6	0.3%
「山口県」&「北九州市」	6	0.3%
「山口県」&「九州」	5	0.3%
「下関」&「九州」	5	0.3%
「下関」&「小倉」	5	0.3%
「福岡」	2	0.1%
「青森」	5	0.3%
国内の他地域（例：関ヶ原）	26	1.4%
「海峡部」を指す普通名詞	8	0.4%
具体的にはわからない	9	0.5%
※「関門地域」という地域が存在を知らない	1082	56.5%
（参考）「門司市」との記述	49	

③ 「山口県下関市」および「福岡県北九州市」の認知・訪問状況

「あなたは、山口県下関市をご存じですか。」という設問に対する居住市別の回答結果、および「あなたは、福岡県北九州市をご存じですか。」という設問に対する居住市別の回答結果をまとめたものを表5に示す。また、他の属性別についてまとめたものを表6に示す。なお、ここでの「行ったことがある」の内容については特に定義は設けておらず、新幹線や自動車で「通過した」のみの場合も「行った」として回答されている可能性がある。

両市について、「知らない」とする回答はそれぞれ3%前後と低い。また、場所についても、「名前は知っているが、場所は知らないし行ったことはない」とする回答はそれぞれ13%

台であることから、回答者の80%以上は、下関市、北九州市の名称や場所を認知している。それぞれの市の認知度そのものは高いと言えよう。

その他の属性別に見ると、下関市、北九州市とも、女性の方が「場所は知らない」とする回答が多く、また若い世代ほど「場所は知らない」「(名前も場所も)知らない」とする回答が多い。20代では両市とも約1割が「知らない」としている。また、市を訪れた経験のある回答者においても関門地域について知らないとする人が相当程度存在している。

表5 「山口県下関市」および「福岡県北九州市」の認知・訪問状況（居住市別）

	居住市	回答者数(人)	住んでいたことがある	行ったことがある	名前も場所も知っているが、行ったことはない	名前は知っているが、場所は知らないし行ったことはない	知らない
「山口県下関市」の認知度等	6市合計	1,916	0.9%	42.6%	40.2%	13.2%	3.1%
	仙台市	321	0.0%	10.6%	58.9%	26.8%	3.7%
	横浜市	316	0.0%	25.9%	52.5%	16.8%	4.7%
	名古屋市	320	0.0%	28.8%	49.4%	16.9%	5.0%
	大阪市	321	0.3%	38.6%	47.0%	10.9%	3.1%
	広島市	317	3.8%	85.8%	6.6%	2.8%	0.9%
	熊本市	321	1.6%	66.4%	26.5%	4.7%	0.9%
「福岡県北九州市」の認知度等	6市合計	1,916	2.1%	46.5%	35.1%	13.4%	2.9%
	仙台市	321	0.9%	14.0%	54.2%	27.1%	3.7%
	横浜市	316	3.5%	35.4%	39.2%	18.0%	3.8%
	名古屋市	320	1.3%	32.5%	46.6%	15.3%	4.4%
	大阪市	321	1.2%	44.9%	38.0%	13.1%	2.8%
	広島市	317	2.8%	75.7%	15.5%	4.1%	1.9%
	熊本市	321	2.8%	76.6%	16.8%	2.8%	0.9%

表6 「山口県下関市」および「福岡県北九州市」の認知・訪問状況（居住市以外の主な属性別）

	項目	回答者数(人)	住んでいたことがある	行ったことがある	名前も場所も知っているが、行ったことはない	名前は知っているが、場所は知らないし行ったことはない	知らない
「山口県下関市」の認知度等							
【性別】	男性	1,014	0.8%	48.7%	40.3%	7.4%	2.8%
	女性	902	1.1%	35.8%	40.0%	19.6%	3.4%
【年齢別】	20代	122	0.8%	31.1%	32.0%	26.2%	9.8%
	30代	287	0.0%	36.9%	36.6%	21.3%	5.2%
	40代	552	0.5%	40.8%	39.9%	15.0%	3.8%
	50代	518	1.4%	44.0%	41.5%	11.4%	1.7%
	60代	351	1.7%	49.3%	44.4%	4.0%	0.6%
	70代以上	86	1.2%	54.7%	40.7%	3.5%	0.0%
【「関門地域」認知別】	知っている	834	1.7%	57.6%	36.7%	3.4%	0.7%
	知らない	1,082	0.4%	31.1%	42.9%	20.7%	4.9%
「福岡県北九州市」の認知度等							
【性別】	男性	1,014	2.9%	53.7%	32.7%	8.2%	2.5%
	女性	902	1.2%	38.4%	37.7%	19.3%	3.4%
【年齢別】	20代	122	1.6%	36.1%	27.9%	23.8%	10.7%
	30代	287	1.4%	37.3%	32.8%	22.6%	5.9%
	40代	552	1.3%	42.4%	38.0%	15.2%	3.1%
	50代	518	2.3%	47.7%	37.5%	11.0%	1.5%
	60代	351	3.1%	58.4%	33.0%	5.1%	0.3%
	70代以上	86	4.7%	62.8%	27.9%	4.7%	0.0%
【「関門地域」認知別】	知っている	834	3.5%	62.4%	30.3%	3.5%	0.4%
	知らない	1,082	1.0%	34.3%	38.7%	21.1%	4.9%

下関市、北九州市それぞれについての認知度は高いにも関わらず、関門地域についての認知度が低いことは、関門地域という名称があまり浸透していないことを表していると言え、観光政策や地域ブランド化の検討を進めるに際しての大きな課題と言えよう。

(2) 関門地域への訪問および観光行動の実態

本節では、関門地域へ訪問した内容等を把握する。従って、基本的に(1)③において、下関市または北九州市へ「行ったことがある」とした回答者を対象とした設問となる。

なお、アンケート調査においては、本節以降の設問については、「関門地域」を下関市、北九州市と定義することを回答者全体に明示した。

① 「関門地域」への訪問回数

(1)③において、下関市または北九州市に「行ったことがある」とした回答者のみを対象に、目的別の訪問回数（下関市と北九州市の合算）³⁾を尋ねた結果について、入力された回数の平均値を表 7 に示す。

「仕事・出張」では平均 2.6 回、「観光」では平均 2.4 回、「スポーツ観戦・観劇・文化鑑賞」では平均 0.2 回の訪問となっている。「仕事・出張」については熊本市、横浜市、広島市の順で平均来訪回数が多く、「観光」については広島市、熊本市、大阪市の順で平均来訪回数が多くなっている。全般に、仙台市、名古屋市からの訪問回数は少ない。

このうち「観光」について、回答者全体の訪問回数を見たものを表 8 に示す。観光目的で関門地域に来たことのない回答者は、本設問回答対象外の 898 サンプルと本設問で 0 回と答えた 167 サンプルを合わせ、全回答者の 46.9%である。つまり約半数の回答者が、関門地域へ観光目的で 1 回以上来訪したこととなり、高い訪問比率と言えよう。観光目的で来たことのある人の回数別の状況を見ると 1 回が最も多く、次いで 2 回となっており、少ない回数の方が回答者数は多くなっている。

観光政策を進めるに際して、関門地域への観光目的の来訪経験のある国民が比較的多い点は留意すべき点であり、これまでの官民の観光事業等は一定の成果を挙げてきたと評価できよう。

表 7 「関門地域」への訪問回数（目的別 平均回数）

	回答者数 (人)	下関市または北九州市への訪問回数（目的別平均）（回）					
		仕事・出張	観光	スポーツ観 戦・観劇・文化 観賞	親族・知人 宅への訪問	その他の目 的	覚えていない
6市合計	1,018	2.6	2.4	0.2	1.1	0.4	0.1
仙台市	53	0.6	1.2	0.0	0.3	0.1	0.0
横浜市	132	2.9	1.2	0.1	1.1	0.4	0.1
名古屋市	120	1.1	1.6	0.0	0.3	0.2	0.0
大阪市	161	2.2	1.9	0.2	1.0	0.2	0.1
広島市	290	2.6	3.7	0.3	0.8	0.6	0.3
熊本市	262	3.7	2.6	0.2	1.9	0.5	0.1

表 8 「関門地域」への「観光」目的の訪問回数の内訳（6市合計）

	回答者数 (人)	全回答者(n=1,916)に おける構成比
回答対象外(関門への来訪なし)	898	46.9%
0回(観光以外の目的でのみ来訪)	167	8.7%
1回	347	18.1%
2回	198	10.3%
3回	125	6.5%
4回	27	1.4%
5回	82	4.3%
6回以上	72	3.8%
当該設問回答者計	1,018	
回答対象外も含む全回答者	1,916	

② 「関門地域」に来た際の観光目的の種別

(2)①において、観光目的で関門地域に来たことがある回答者 851 サンプルに対し、「あなたが過去に関門地域に来た際の観光目的について選んでください。」として 13 の観光種類から複数選択可（選択個数無制限）で尋ねた結果を図 6 に示す。

6市計で見ると、最も多いのは「観光施設めぐり」であり、回答対象者の 54.5%が挙げている。次いで「ドライブ」(39.1%)、「グルメ」(26.3%)、「歴史・文化探訪」(24.8%)となっており、回答率が 20%を超えるのはこの 4 項目となっている。これらに関門地域への観光目的の主たるものと言えよう。なお、関門地域の特徴とも言える「産業観光」については、他目的と比較すると少ないものの、5.2%が目的として挙げており、一度に多人数の対応が困難な性質の観光種類としては多くの観光客を集めていると言えよう。

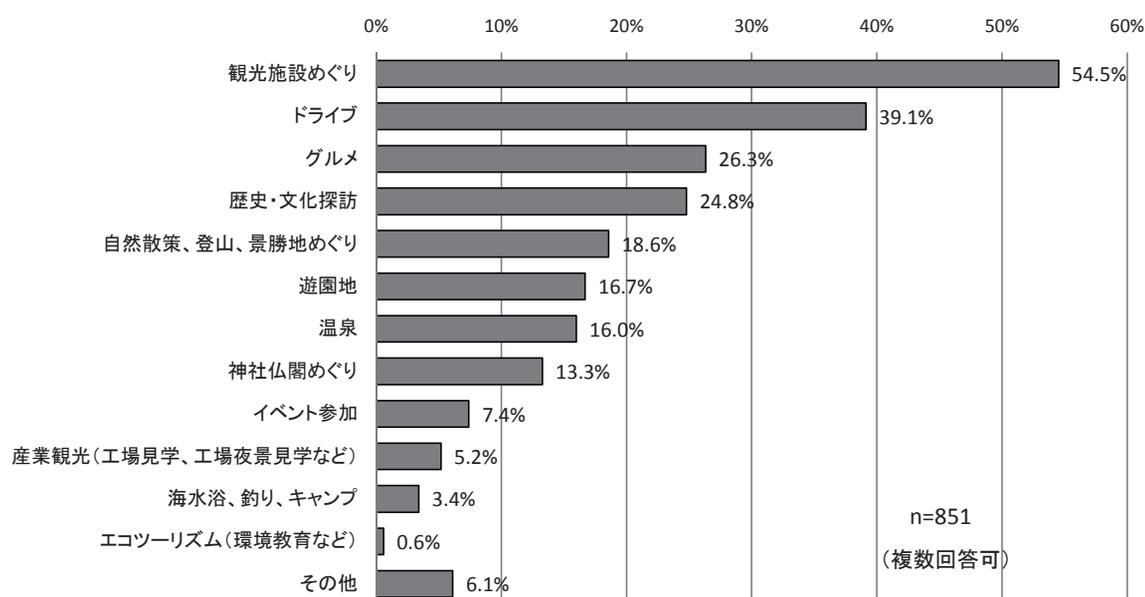


図 6 「関門地域」に来た際の観光目的の種別（6市計）（回答の多い順に並べ替え）

この結果について、回答者の主な属性別に見たものを表 9 に示す。特徴的な傾向としては以下の点が挙げられる。居住市別に見ると、遠方からの来訪者は「自然散策、登山、景勝地めぐり」の比率が比較的高い一方で、近い都市からの来訪者は「遊園地」、「イベント参加」が比較的多い。性別では男性の方が「歴史・文化探訪」が多い等の傾向が見られるが、男女で際立った違いはない。年齢別では 40 代までの世代は「歴史・文化探訪」は少なく、50 代以上は「観光施設めぐり」と「歴史・文化探訪」が多い傾向が見られる。また、20 代と 70 代以上において「海水浴、釣り、キャンプ」が目立って多い。居住市と年齢によって、関門地域での観光目的に一部特徴が見られると言えよう。なお、産業観光については 70 代以上で回答が特に多く 16%にのぼっており、他の世代では 1.8~5.2%となっている。年齢によって産業観光への関心は異なっていると言えよう。

観光政策を進めるに際しては、こうした属性別の観光目的、ひいては旅行の関心の相違や、関門地域の他地域と比較しての特長を十分踏まえる必要がある。

表 9 「関門地域」に来た際の観光目的の種別（主な属性別）

	回答者数 (人)	温泉	ドライブ	海水浴、釣 り、キャン プ	神社仏閣 めぐり	観光施設 めぐり	自然散策、 登山、景勝 地めぐり	遊園地	産業観光 (工場見学 工場夜景見 学など)	エコツーリ ズム(環境 教育など)	イベント参 加	歴史・文化 探訪	グルメ	その他
6市合計	851	16.0%	39.1%	3.4%	13.3%	54.5%	18.6%	16.7%	5.2%	0.6%	7.4%	24.8%	26.3%	6.1%
【居住市別】														
仙台市	40	17.5%	25.0%	2.5%	17.5%	62.5%	22.5%	10.0%	10.0%	0.0%	5.0%	40.0%	15.0%	10.0%
横浜市	89	11.2%	15.7%	4.5%	13.5%	52.8%	31.5%	5.6%	2.2%	1.1%	4.5%	28.1%	25.8%	6.7%
名古屋市	99	19.2%	22.2%	4.0%	10.1%	57.6%	21.2%	9.1%	6.1%	0.0%	4.0%	26.3%	24.2%	6.1%
大阪市	137	24.1%	27.0%	2.9%	11.7%	54.0%	22.6%	8.8%	2.9%	0.0%	5.1%	25.5%	20.4%	2.9%
広島市	266	17.7%	51.5%	3.4%	19.5%	58.3%	14.3%	21.4%	5.3%	0.8%	8.6%	25.6%	33.8%	6.4%
熊本市	220	9.1%	51.4%	3.2%	7.3%	48.2%	14.1%	25.0%	6.4%	0.9%	10.5%	18.6%	24.1%	6.8%
【性別】														
男性	492	12.4%	41.9%	3.5%	14.2%	52.8%	19.3%	16.3%	6.7%	0.8%	7.9%	29.9%	27.0%	5.7%
女性	359	20.9%	35.4%	3.3%	12.0%	56.8%	17.5%	17.3%	3.1%	0.3%	6.7%	17.8%	25.3%	6.7%
【年齢別】														
20代	44	15.9%	45.5%	13.6%	4.5%	38.6%	20.5%	11.4%	4.5%	2.3%	15.9%	6.8%	22.7%	6.8%
30代	114	15.8%	36.8%	1.8%	5.3%	42.1%	14.0%	15.8%	1.8%	0.9%	5.3%	12.3%	33.3%	5.3%
40代	230	16.1%	43.0%	2.6%	10.0%	44.3%	16.1%	23.0%	4.8%	0.4%	7.0%	19.1%	23.0%	9.1%
50代	229	14.0%	35.4%	2.6%	17.5%	58.5%	17.9%	16.6%	5.2%	0.4%	9.2%	28.4%	22.3%	5.2%
60代	184	16.8%	39.7%	2.2%	18.5%	68.5%	23.4%	12.0%	4.9%	0.0%	5.4%	33.7%	31.0%	5.4%
70代以上	50	22.0%	36.0%	10.0%	16.0%	74.0%	24.0%	12.0%	16.0%	2.0%	6.0%	46.0%	30.0%	0.0%

：各属性で回答率の高い上位3目的

③ 「関門地域」での宿泊経験

改めて(1)③において、下関市または北九州市に「行ったことがある」とした回答者のみを対象に、「関門地域内で宿泊した経験がありますか。」と尋ねた結果を図 7 に示す。

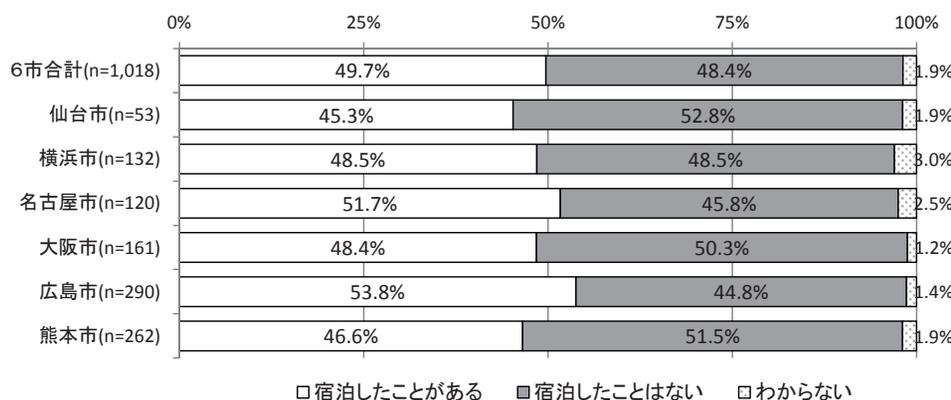


図 7 「関門地域」での宿泊経験（関門地域を訪れたことのある人のみ集計対象）

関門地域を訪れたことのある人（観光目的以外も含む。）のほぼ半数の49.7%が「宿泊したことがある」と回答し、居住市による大きな差はない。

④ 一度の観光・出張において下関市と北九州市の双方を訪問したことの有無

(1)③において、下関市または北九州市に「行ったことがある」とした回答者のみを対象に、「一度の観光や出張において、下関市と北九州市の双方に行ったことはありますか。」と尋ねた結果を居住市別にまとめたものを図8に示す。関門地域に地理的に近い市の居住者の方が、一度の観光・出張において下関市と北九州市の双方を訪問したことがあるとする回答が多い。

この結果について、関門地域への訪問回数別にまとめたものを図9に示す。関門地域への訪問回数が多いほど、一度の観光・出張において下関市と北九州市の双方を訪問したことがある回答者が増加する傾向が明らかである。

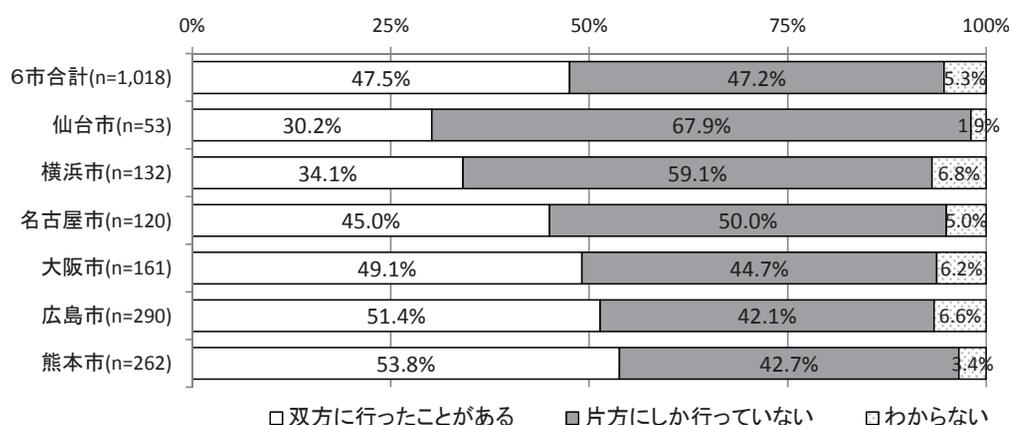


図8 一度の観光・出張において下関市と北九州市の双方を訪問したことの有無（関門地域を訪れたことのある人のみ集計対象）（居住市別）

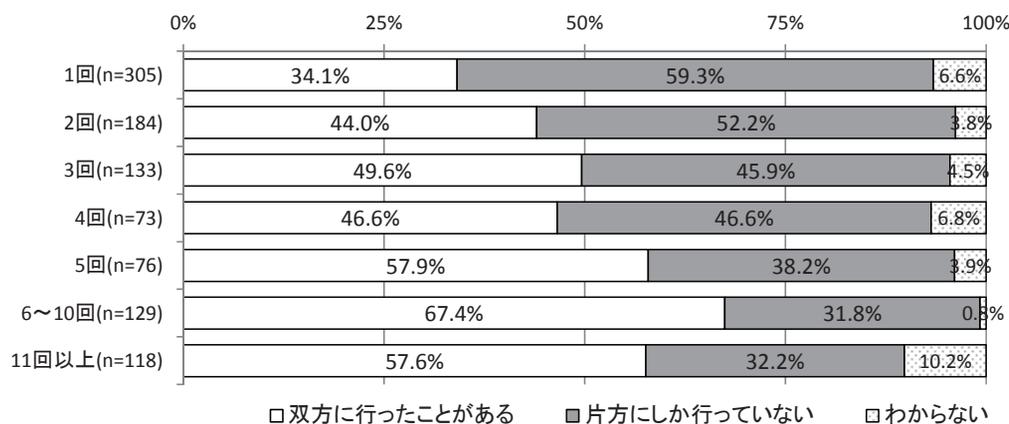


図9 一度の観光・出張において下関市と北九州市の双方を訪問したことの有無（関門地域を訪れたことのある人のみ集計対象）（関門地域への訪問回数別）

⑤ 「関門地域」への訪問に際し利用した主な交通手段

(1)③において、下関市または北九州市に「行ったことがある」とした回答者のみを対象に、「関門地域に行った時に利用した主な交通手段をすべて選んでください。」として複数選択可（選択回数無制限）で尋ねた結果を居住市ごとの回答別に整理したものを図 10 に示す。

熊本市および広島市では「自家用車・レンタカー」の比率が 70%以上と高く、名古屋市および大阪市では「新幹線」が 50%以上となっている。横浜市と仙台市は「新幹線」と「飛行機」に高速交通機関は分かれている。船舶については大阪市の回答が目立って多いが、これは関西と関門地域を結ぶフェリー航路が複数あることに依ると思われる。

関門地域への訪問に利用する交通手段は多岐にわたっており、観光政策を進めるに際しては、引き続き多様な広域交通手段の確保や、各ターミナルから観光地までの交通アクセスの整備等に幅広く取り組んでいくことが求められよう。

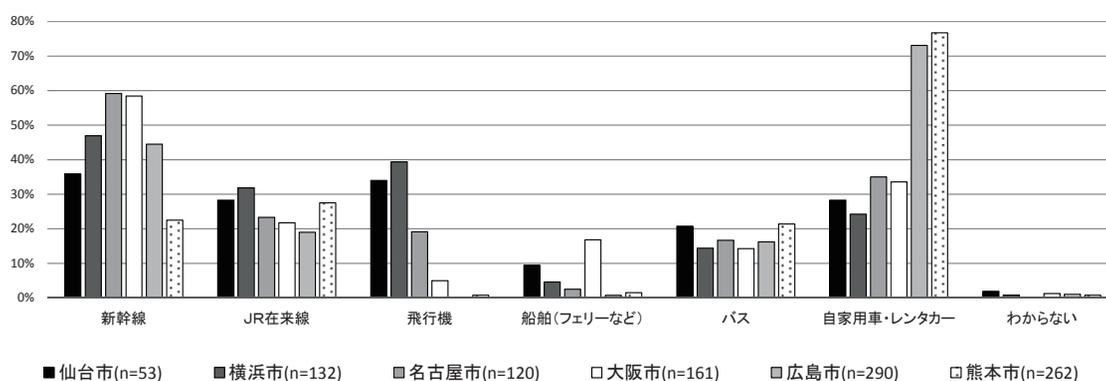


図 10 「関門地域」への訪問に際し利用した主な交通手段（居住市別）

⑥ 「関門地域」への訪問に際し併せて訪れた周辺都市・観光地

(1)③において、下関市または北九州市に「行ったことがある」とした回答者を対象に「関門地域に行った時に、併せて訪れたことのある周辺都市・観光地をすべて選んでください。」として複数選択可（選択回数無制限）で尋ねた結果を居住市別に整理したものを表 10 に示す。また 6 市合計の結果について抽出し回答の多い順に並べたものを図 11 に示す。

6 市合計で見ると最も多いのは「福岡市」(39.6%)であり、次いで「萩・長門」(30.3%)、「秋芳洞および周辺」(29.0%)、「太宰府天満宮、九州国立博物館周辺」(23.7%)、「別府・湯布院・大分市」(22.3%)、「山口市」(22.2%)、「広島市・宮島」(15.9%)が訪問先として多くなっており、関門地域と併せて広島県内、山口県内、福岡市周辺、大分県内に幅広く同時訪問する場所が広がっている。これは、関門地域が交通結節点であることに起因するものと推測する。なお、福岡県内の宗像や筑豊については訪問率は低い。

また、「併せて訪れた都市・観光地はない」とする回答者も 6 市合計で 26.0%にのぼる。これについては、居住市別に見ると、広島市および熊本市の近隣両市において、この回答が多くなっていることが要因である。これは、鈴木忠義が提唱した「ラケット理論」(旅行

表 10 「関門地域」への訪問に際し併せて訪れた周辺都市・観光地

	広島市・宮島	山口市	萩・長門	秋芳洞および周辺	宗像大社および周辺	筑豊(直方、飯塚、田川など)・英彦山	福岡市(博多など)・糸島	太宰府天満宮、九州国立博物館周辺	中津	別府・湯布院・大分市	その他	わからない	併せて訪れた都市・観光地はない
6市合計(n=1,018)	15.9%	22.2%	30.3%	29.0%	4.0%	5.3%	39.6%	23.7%	6.5%	22.3%	2.6%	3.4%	26.0%
仙台市(n=53)	22.6%	35.8%	35.8%	37.7%	1.9%	3.8%	56.6%	41.5%	5.7%	28.3%	1.9%	1.9%	11.3%
横浜市(n=132)	14.4%	15.2%	21.2%	25.0%	2.3%	3.8%	40.9%	22.0%	6.1%	20.5%	6.1%	3.0%	21.2%
名古屋市(n=120)	24.2%	24.2%	32.5%	33.3%	3.3%	5.0%	49.2%	31.7%	6.7%	27.5%	2.5%	1.7%	16.7%
大阪市(n=161)	21.1%	20.5%	35.4%	31.1%	5.0%	4.3%	51.6%	23.0%	9.3%	31.7%	3.7%	1.2%	13.0%
広島市(n=290)	5.2%	20.0%	29.7%	26.2%	3.1%	5.2%	32.1%	20.3%	5.5%	22.4%	1.4%	4.1%	34.1%
熊本市(n=262)	20.2%	25.6%	30.2%	29.0%	6.1%	7.3%	32.1%	21.4%	6.1%	13.7%	1.5%	5.3%	34.7%

：各都市で回答率の高い上位3地点

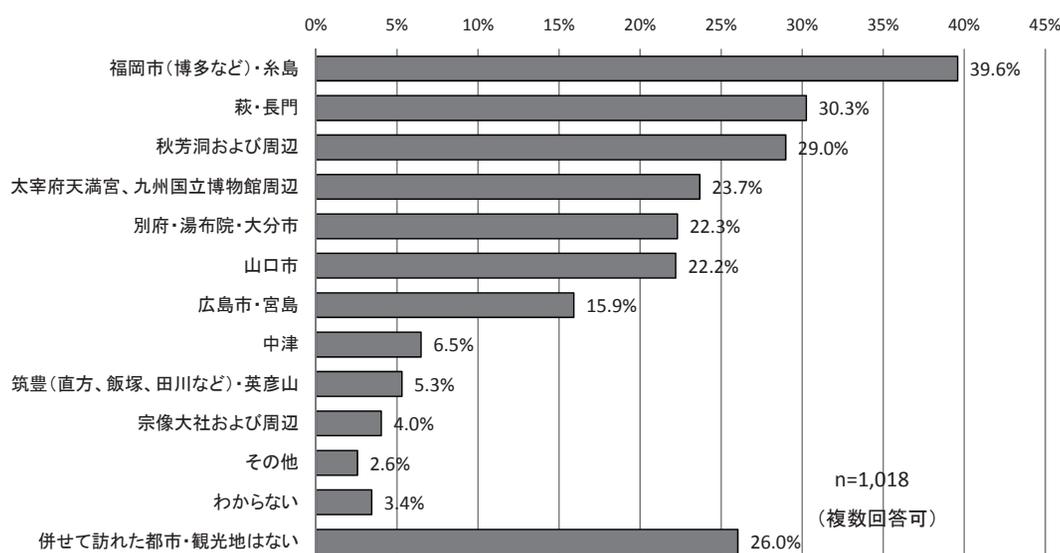


図 11 「関門地域」への訪問に際し併せて訪れた周辺都市・観光地（6市計）（回答の多い順に並べ替え）

者の居住地から観光目的地までの距離と行動圏は比例し、居住地と観光地が離れば離れるほど周遊観光の範囲が広がる、というもので説明できる。

観光政策を進めるに際しては、関門地域内のみならず、広島都市圏から山口県内、福岡都市圏、および大分県内との観光面での広域連携を意識する必要がある。特に、これらの域外の観光地を訪れる観光客の中で関門地域を訪れていない人々は多数にのぼると思われる。そうした人々を関門地域に呼び込むための誘因策を検討することが重要と言えよう。

⑦ 「関門地域」で行ったことがある観光資源等

(1)③において、下関市または北九州市に「行ったことがある」とした回答者に加え、「住んでいたことがある」とした回答者も対象に、「関門地域の観光資源で、行ったことがある場所をすべて選んでください。」として複数選択可（選択個数無制限）で尋ねた結果を居住市別にまとめたものを表 11 に示す。

6市とも最も訪問率が高いのは、北九州市の「門司港レトロ地区の歴史的建造物」であり、6市合計でみると 41.3%が訪れている。また、両市に跨る「関門人道トンネル」も6市とも

訪問率上位になっている。この2資源は、いずれの市においても上位5資源内に入っている。その他の施設については、下関市では「唐戸市場・カモンワーフ」、「海響館（水族館）」、「赤間神宮」などが上位であり、北九州市では「小倉城・松本清張記念館」、「スペースワールド」などが上位となっている。6市ごとに見ると、上位5資源について下関市内が2資源、北九州市内が2資源、両市に跨る1資源で概ね構成されており、下関市と北九州市が一体的な観光地となっている可能性を指摘できる。

下関市内について傾向を見ると、広島市や熊本市からは「角島周辺」、「川棚温泉」への訪問率が比較的高いが、この2資源は仙台市、横浜市等からの訪問率は低い。これは資源の存在が東日本までには十分伝っていない可能性や、関門海峡を中心とした観光資源集積地から離れているため、門司港レトロ地区等と一体的に観光しづらい可能性等を指摘できる。また、「巖流島」は仙台市や横浜市では上位ではあるものの、訪問率は各市10%台に止まっており、その想定される知名度（宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘という逸話の知名度）よりも実際の訪問率は低いと言えよう。

北九州市内について傾向を見ると、訪問率が高い施設は門司港地区と小倉都心部、八幡

表 11 「関門地域」で行ったことがある観光資源等（居住市別）

	6市合計	仙台市	横浜市	名古屋市	大阪市	広島市	熊本市
回答者数	1,028	53	134	121	164	292	264
下関市							
角島周辺	13.9%	0.0%	2.2%	4.1%	3.0%	32.9%	12.9%
土井ヶ浜	3.6%	0.0%	1.5%	2.5%	3.0%	6.8%	2.7%
川棚温泉	10.5%	0.0%	3.7%	3.3%	3.7%	20.2%	12.9%
螢街道西ノ市	1.6%	0.0%	0.7%	0.8%	1.2%	3.1%	1.1%
長府庭園・長府藩侍屋敷長屋	8.7%	1.9%	6.7%	4.1%	10.4%	13.4%	6.8%
火の山・みもすそ川公園・壇ノ浦	14.8%	9.4%	7.5%	8.3%	11.6%	27.4%	10.6%
唐戸市場・カモンワーフ	24.2%	9.4%	7.5%	6.6%	15.2%	46.2%	25.0%
海響館（水族館）	23.7%	5.7%	2.2%	9.9%	9.1%	51.4%	23.1%
旧秋田商会・英国領事館・日清講和記念館	4.7%	0.0%	3.0%	3.3%	6.7%	7.9%	2.3%
赤間神宮	18.0%	5.7%	14.2%	14.9%	12.2%	31.5%	12.5%
海峡ゆめタワー・海峡メッセ	20.5%	5.7%	11.9%	14.0%	14.0%	34.9%	18.9%
巖流島	13.4%	15.1%	16.4%	11.6%	13.4%	14.0%	11.7%
下関市内の海水浴場	3.1%	0.0%	3.7%	3.3%	2.4%	3.8%	3.0%
下関市内の美術館・博物館等	5.4%	1.9%	3.0%	4.1%	6.1%	6.2%	6.8%
下関市のスポーツ施設	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	2.7%	2.3%
下関市のその他の場所	2.4%	3.8%	3.7%	4.1%	0.0%	2.1%	2.7%
両市							
関門人道トンネル	29.9%	22.6%	26.1%	22.3%	32.3%	35.3%	29.2%
北九州市							
門司港レトロ地区の歴史的建造物 (旧門司税関、門司三井倶楽部等)	41.3%	20.8%	34.3%	35.5%	36.0%	48.3%	47.3%
九州鉄道記念館	8.9%	3.8%	6.0%	7.4%	8.5%	8.2%	12.9%
出光美術館	3.5%	0.0%	3.7%	2.5%	6.1%	3.8%	2.7%
めかり公園	16.1%	7.5%	11.2%	9.1%	7.3%	20.9%	23.5%
松永文庫(映画・芸能資料館)や北九州市内の映画・TVロケ地	1.0%	1.9%	0.0%	2.5%	1.8%	0.3%	0.8%
小倉城・松本清張記念館・文学館	16.1%	15.1%	23.1%	14.9%	12.8%	13.7%	17.8%
魚町・巨過市場周辺	8.9%	9.4%	9.0%	6.6%	6.7%	9.2%	10.6%
到津の森公園(動物園)	3.3%	3.8%	4.5%	1.7%	1.8%	2.4%	5.3%
平尾台・鍾乳洞	7.6%	3.8%	5.2%	4.1%	7.3%	4.1%	15.2%
高塔山公園	1.8%	1.9%	0.7%	0.8%	1.8%	2.1%	2.7%
若松北海岸・グリーンパーク	1.8%	1.9%	1.5%	0.0%	2.4%	2.7%	1.5%
スペースワールド	28.4%	9.4%	6.7%	15.7%	18.9%	40.1%	42.0%
いのちのたび博物館・環境ミュージアム	2.1%	3.8%	0.7%	1.7%	0.6%	3.4%	2.3%
八幡製鐵所関連施設	5.3%	17.0%	5.2%	2.5%	4.3%	5.5%	4.5%
河内貯水池・河内藤園	1.0%	0.0%	0.7%	0.8%	1.8%	1.0%	0.8%
皿倉山	4.7%	5.7%	3.7%	2.5%	1.8%	3.8%	8.7%
北九州市内の他の美術館・文学館等	4.7%	5.7%	4.5%	1.7%	5.5%	4.5%	5.7%
北九州市のスポーツ施設	2.6%	1.9%	0.0%	1.7%	5.5%	2.7%	2.7%
北九州市のその他の場所	3.0%	7.5%	6.7%	2.5%	0.6%	2.7%	2.3%
その他 (上記施設等については) どこにも行ったことはない わからない	11.2%	20.8%	20.1%	16.5%	13.4%	4.1%	8.7%
	8.3%	24.5%	10.4%	12.4%	9.8%	3.8%	6.1%

：各都市の中で回答率の高い上位5資源。ただし大項目「その他」の選択肢は除く

※ 構成比は、各都市ごとの比率。観光資源別の内訳ではない。

東区の東田地区に集中しており、その他の資源への訪問率は低い。多様な資源がありながら、他都市住民に対する知名度が低い可能性が指摘できる。また下関市側と同様、関門海峡を中心とした観光資源集積地から離れている資源は一体的に観光しづらいため訪問率が低下している可能性がある。

観光政策を推進に際しては、門司港レトロ地区や唐戸地区を中心とした関門海峡エリアに集中している観光客を、地域全体への周遊へと導く方策の検討が重要と言えよう。なお遠隔地からは旅行代理店経由のツアー客も多いと思われるため、多様な資源の知名度向上に向けては個人向けの情報発信に加え、旅行代理店向けの情報発信等も重要と考えられる。

(3) 関門地域への観光等による訪問の意向

① 「関門地域」で今後行ってみたい観光資源等

(2)⑦においては、関門地域への来訪経験者を対象に「行ったことがある観光資源等」を尋ねたが、同じ選択肢⁴⁾を用いて全ての回答者を対象に、「関門地域の観光資源で、今後行ってみたい場所をすべて選んでください。」として複数選択可（選択個数無制限）で尋ねた結果を居住市別にまとめたものを表12に示す。

表12 「関門地域」で今後行ってみたい観光資源等（居住市別）

	6市合計	仙台市	横浜市	名古屋市	大阪市	広島市	熊本市
回答者数	1,916	321	316	320	321	317	321
下関市							
角島周辺	11.0%	1.9%	3.8%	5.0%	5.3%	37.2%	12.8%
土井ヶ浜	3.2%	4.4%	3.5%	2.2%	1.9%	4.7%	2.5%
川棚温泉	14.4%	9.0%	11.1%	9.1%	14.0%	26.2%	16.8%
螢街道西ノ市	2.4%	1.6%	2.5%	0.9%	2.8%	5.4%	1.2%
長府庭園・長府藩侍屋敷長屋	9.0%	7.2%	8.2%	10.9%	9.0%	12.6%	5.9%
火の山・みもすそ川公園・壇ノ浦	7.0%	5.0%	6.3%	8.1%	9.7%	7.9%	5.0%
唐戸市場・カモンワーフ	12.0%	4.0%	5.7%	5.6%	10.3%	29.7%	16.5%
海響館(水族館)	15.2%	10.9%	10.1%	9.7%	13.4%	31.5%	15.9%
旧秋田商会・英国領事館・日清講和記念館	6.1%	5.9%	6.3%	7.5%	5.0%	6.9%	5.0%
赤間神宮	5.4%	4.0%	5.4%	6.6%	5.0%	5.7%	5.6%
海峡ゆめタワー・海峡メッセ	11.1%	9.3%	9.2%	10.3%	8.1%	16.7%	13.1%
厳流島	26.2%	32.4%	29.7%	26.6%	24.9%	18.6%	24.9%
下関市内の海水浴場	2.2%	2.8%	2.8%	1.3%	2.5%	1.3%	2.8%
下関市内の美術館・博物館等	5.8%	6.5%	4.7%	5.0%	7.8%	5.0%	5.6%
下関市のスポーツ施設	0.4%	0.0%	0.6%	0.0%	0.3%	0.6%	0.9%
下関市のその他の場所	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
両市							
関門人道トンネル	20.6%	24.0%	22.8%	22.8%	21.8%	14.8%	17.1%
北九州市							
門司港レトロ地区の歴史的建造物 (旧門司税関・門司三井倶楽部等)	27.7%	18.7%	23.1%	27.5%	30.5%	35.3%	30.8%
九州鉄道記念館	11.4%	9.7%	10.8%	11.9%	8.1%	14.2%	14.0%
出光美術館	7.7%	6.9%	8.5%	6.9%	8.7%	7.9%	7.2%
めかり公園	3.7%	2.2%	2.2%	3.1%	2.5%	6.0%	6.2%
松永文庫(映画・芸能資料館)や北九州市内の映画・TVロケ地	3.9%	2.5%	5.7%	3.1%	4.4%	3.8%	3.7%
小倉城・松本清張記念館・文学館	13.8%	12.5%	14.9%	13.1%	14.0%	13.9%	14.6%
魚町・旦過市場周辺	5.9%	4.7%	5.4%	5.9%	4.7%	7.9%	6.9%
到津の森公園(動物園)	3.4%	3.4%	1.9%	2.2%	3.7%	4.7%	4.7%
平尾台・鍾乳洞	9.3%	7.8%	7.3%	10.3%	10.6%	9.8%	10.3%
高塔山公園	2.1%	1.9%	1.6%	2.2%	1.2%	4.4%	1.2%
若松北海岸・グリーンパーク	3.4%	2.5%	3.5%	1.9%	2.5%	4.1%	5.9%
スペースワールド	17.7%	11.2%	12.3%	15.3%	17.4%	22.4%	27.4%
いのちのたび博物館・環境ミュージアム	5.0%	4.0%	3.8%	4.1%	4.4%	8.5%	5.3%
八幡製鐵所関連施設	11.8%	11.8%	14.2%	10.6%	12.8%	12.6%	9.0%
河内貯水池・河内藤園	1.9%	0.9%	2.2%	1.6%	1.6%	3.5%	1.9%
皿倉山	2.7%	0.6%	2.2%	1.3%	2.5%	4.1%	5.6%
北九州市内の他の美術館・文学館等	4.2%	3.7%	2.8%	3.4%	5.3%	6.6%	3.4%
北九州市のスポーツ施設	0.8%	0.3%	0.9%	0.3%	1.2%	1.3%	0.6%
北九州市のその他の場所	0.6%	0.9%	0.3%	0.6%	0.3%	0.6%	0.6%
その他							
(上記施設等については)どこにも行きたくない	11.4%	16.2%	15.5%	13.4%	11.5%	3.2%	8.7%
わからない	19.9%	24.9%	20.9%	22.5%	21.5%	13.6%	15.9%

※各都市の中で回答率の高い上位5資源。本設問については、大項目「その他」の選択肢も順位に含んでいる。

※構成比は、各都市ごとの比率。観光資源別の内訳ではない。

6市合計で見ると、最も多いのは北九州市の「門司港レトロ地区の歴史的建造物」であり、次いで下関市の「巖流島」となっている。この2資源は、回答者に占める訪問希望率が25%（4人に1人）を上回っており、ニーズが比較的高い資源と言えよう。6市別に見ると「巖流島」は仙台市や横浜市で特に希望率が高い。(2)⑦で見た「行ったことがある資源」の訪問率を大きく上回っており、知名度の高さや期待度の高さがうかがわれる。

仙台市、横浜市、名古屋市および大阪市については、概ね回答傾向が類似しているが、近隣の広島市、熊本市は傾向が異なっており、下関市の「角島周辺」や「川棚温泉」、「唐戸市場・カモンワープ」などへの希望率が高い。これらは知名度は広域的ではないが、「知る人ぞ知る」魅力のある観光資源として認識されていると考えられる。

一方、「わからない」とする回答が6市合計で19.9%にのぼり、また「どこにも行きたくない」も11.4%にのぼっており、関門地域の観光資源等の魅力が十分伝わっていないと言えよう。特に仙台市、横浜市、名古屋市、大阪市においてこれらの回答が多くなっている。

観光政策を進めるに際しては、「巖流島」や「門司港レトロ地区の歴史的建造物」といった知名度・期待度の高い観光資源が存在することを活かし、他の観光資源の広域的な知名度向上を進めていくことが急務と言えよう。

② 今後の「関門地域」への観光での訪問意向

「今後、関門地域（下関市、北九州市）に観光で行ってみたいと思いますか。」という設問に対する居住市別の回答結果を図12に示す。また、他の基本属性別の回答結果の抜粋を表13に示す。

6市とも「行ってみたい」とする回答が最も多く、約45~46%となっている。「ぜひ行ってみたい」と「行ってみたい」を合算すると、6市合計では57%であり、市別にみても仙台市以外は訪問に肯定的な回答が過半数となっている。訪問意向が最も高いのは広島市、次いで熊本市、大阪市、横浜市、名古屋市、仙台市の順となっている。

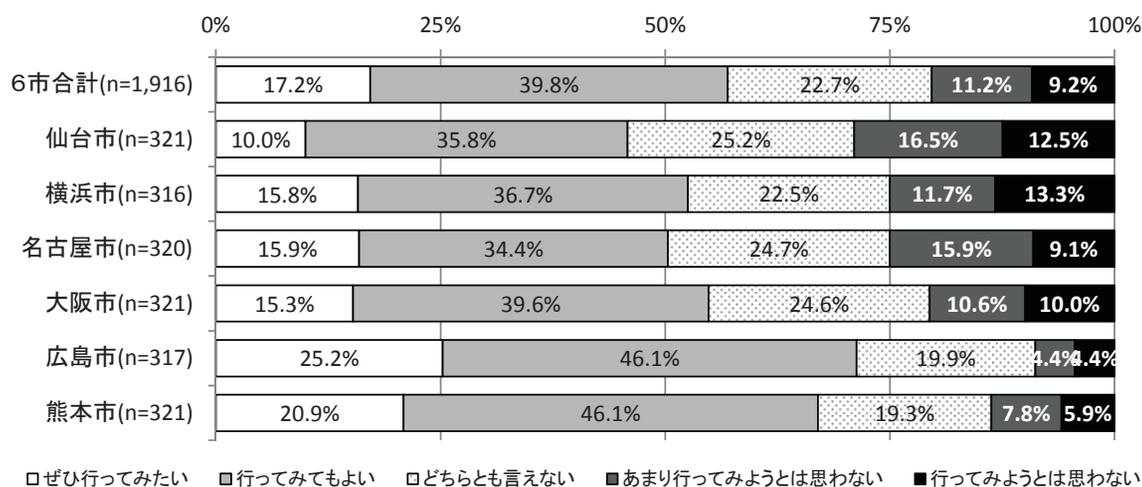


図12 今後の「関門地域」への観光での訪問意向（居住市別）

表 13 今後の「関門地域」への観光での訪問意向（主な属性別）

	回答者数 (人)	ぜひ行っ てみたい	行ってみ てもよい	肯定的回 答計	どちらとも 言えない	あまり行っ てみよう とは思わ ない	行ってみ ようと思 わない	否定的回 答計	
									回答者合計
居住市	仙台市	321	10.0%	35.8%	45.8%	25.2%	16.5%	12.5%	29.0%
	横浜市	316	15.8%	36.7%	52.5%	22.5%	11.7%	13.3%	25.0%
	名古屋市	320	15.9%	34.4%	50.3%	24.7%	15.9%	9.1%	25.0%
	大阪市	321	15.3%	39.6%	54.8%	24.6%	10.6%	10.0%	20.6%
	広島市	317	25.2%	46.1%	71.3%	19.9%	4.4%	4.4%	8.8%
	熊本市	321	20.9%	46.1%	67.0%	19.3%	7.8%	5.9%	13.7%
性別	男性	1,014	16.7%	38.8%	55.4%	23.9%	10.5%	10.3%	20.7%
	女性	902	17.7%	40.9%	58.6%	21.4%	12.0%	8.0%	20.0%
年齢階層	20代	122	16.4%	38.5%	54.9%	19.7%	14.8%	10.7%	25.4%
	30代	287	13.2%	41.8%	55.1%	19.5%	13.6%	11.8%	25.4%
	40代	552	17.0%	38.0%	55.1%	25.2%	11.1%	8.7%	19.7%
	50代	518	16.4%	39.8%	56.2%	23.0%	10.0%	10.8%	20.8%
	60代	351	19.7%	40.5%	60.1%	23.9%	10.0%	6.0%	16.0%
	70代以上	86	26.7%	43.0%	69.8%	15.1%	10.5%	4.7%	15.1%
「関門地域」 認知度	知っている	834	24.2%	46.8%	71.0%	18.6%	6.8%	3.6%	10.4%
	知らない	1,082	11.7%	34.4%	46.1%	25.9%	14.5%	13.5%	28.0%
「下関市」 認知度等	住んでいたことがある	18	50.0%	22.2%	72.2%	16.7%	5.6%	5.6%	11.1%
	行ったことがある	817	23.7%	49.4%	73.2%	20.3%	4.5%	2.0%	6.5%
	名前も場所も知っているが、行ったことはない	770	14.2%	37.7%	51.8%	25.3%	13.8%	9.1%	22.9%
	名前は知っているが、場所は知らないし行ったことはない	252	5.6%	23.8%	29.4%	23.0%	24.2%	23.4%	47.6%
	知らない	59	5.1%	6.8%	11.9%	22.0%	15.3%	50.8%	66.1%
「北九州市」 認知度等	住んでいたことがある	40	27.5%	52.5%	80.0%	15.0%	2.5%	2.5%	5.0%
	行ったことがある	891	23.2%	47.7%	70.9%	20.2%	6.2%	2.7%	8.9%
	名前も場所も知っているが、行ったことはない	672	13.5%	37.9%	51.5%	25.7%	12.9%	9.8%	22.8%
	名前は知っているが、場所は知らないし行ったことはない	257	7.0%	21.4%	28.4%	24.5%	24.9%	22.2%	47.1%
	知らない	56	3.6%	10.7%	14.3%	23.2%	12.5%	50.0%	62.5%

：肯定的回答が半数を下回っている項目

その他の属性別に見ると、関門地域に「ぜひ行ってみたい」あるいは「行ってみてもよい」とする肯定的な回答が半数を下回っているのは、上述の仙台市居住者の他は、関門地域あるいは下関市、北九州市を知らなかった回答者のみとなっており、地域を認識している人々にとっては訪問に肯定的な人が多いと言える。なお、年齢別にみると、高齢になるほど肯定的回答が多い傾向が見られる。男女の差はほとんど無い。

観光政策を進めるに際しては、訪問に肯定的な回答者を現在の約 60%からさらに向上させていくことを目標として、様々な方策を講じていくことが求められる。また、そうした取り組みは関門地域や両市の知名度向上と密接に関わっている点に留意が必要である。

③ 「関門地域」へ観光で行ってみたいと思わない理由

(3)②において、「あまり行ってみたいと思わない」及び「行ってみたいと思わない」とした回答者 390 サンプルを対象に、「関門地域に観光で行ってみたいと思わない理由は何ですか。主な意見を 2 つまで回答してください。」として尋ねた 6 市合計の結果について、回答の多い順に並べたものを図 13 に示す。

最も多いのは「行くキッカケがない」(27.7%)、並んで「旅行にかかる費用が高い」(26.4%)となっている。次いで「観光旅行する時間が無い」、「観光したい施設や場所を知らない」、「観光地としての魅力がない」等となっている。これらのうち、「キッカケがない」および「施設や場所を知らない」という回答者に対しては、効果的な観光 PR 活動や旅行促進活動が行われれば、訪問に肯定的になりやすいと考えられる。観光政策を進めるに際しては、

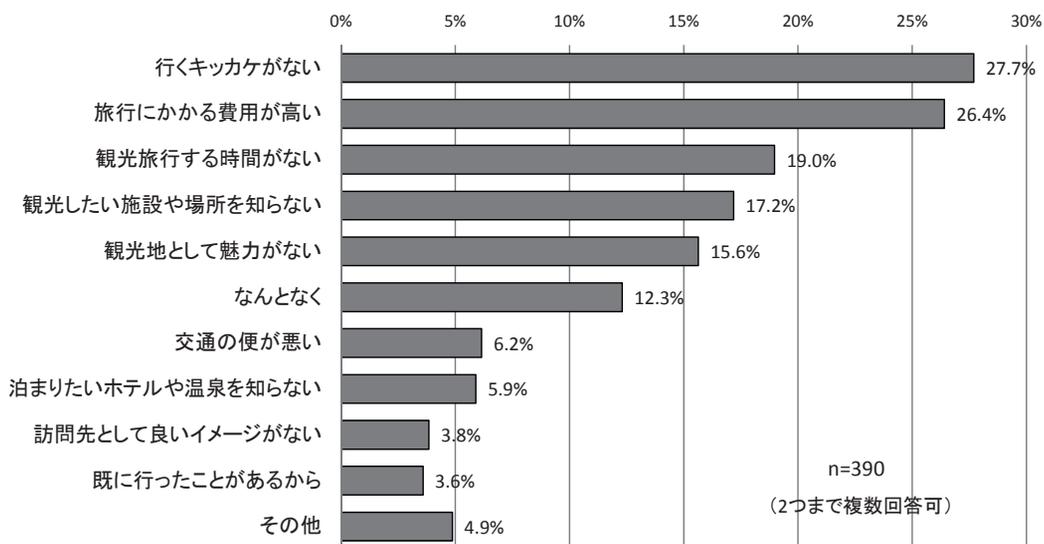


図 13 「関門地域」へ観光で行ってみようと思わない理由（6市計）（回答の多い順に並べ替え）

こうした点を踏まえた上で様々な方策を講じていくことが求められる。訪問に肯定的な国民を増やすことができる余地は十分にあると言えよう。

なお、「訪問先として良いイメージがない」とする回答は3.8%に止まっており、関門地域に関しては特段、悪いイメージは持たれていないものと推測できる。

④ 「関門地域」構成の両市への同時訪問意向

全回答者に対し、「北九州市の中心部と下関市の中心部の間は、関門海峡を挟んでいますが、非常に近い距離⁵⁾にあります。仮に北九州市に観光や仕事で行った際、下関市までついでに行ってみようと思いませんか。あるいは下関市に行った場合、北九州市までついでに行ってみようと思いませんか。」と尋ねた結果を居住市別にまとめたものを図 14 に示す。

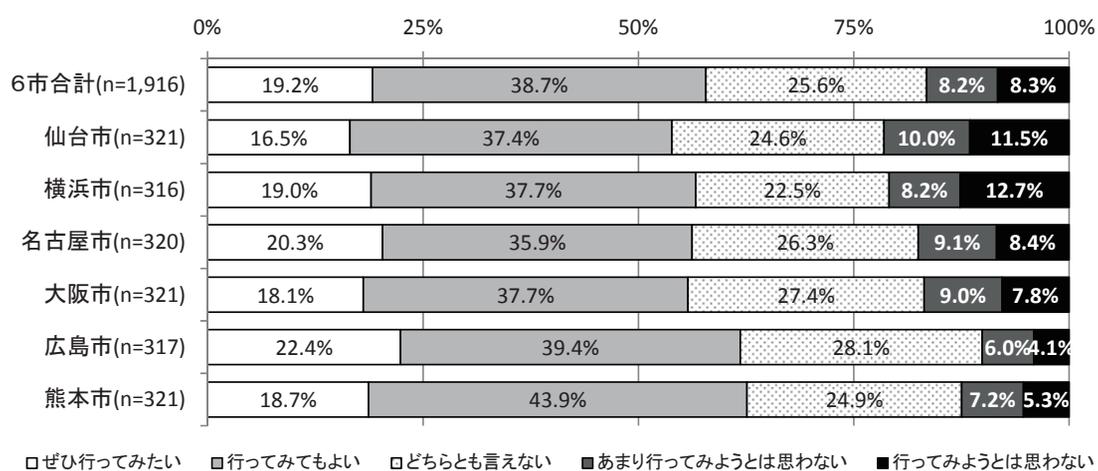


図 14 「関門地域」構成の両市への同時訪問意向（居住市別）

6市合計では「ぜひ行ってみたい」および「行ってみてもよい」とする肯定的回答が57.9%となっている。否定的回答については仙台市が計21.5%で最も高く、次いで横浜市20.9%、名古屋市17.5%、大阪市16.8%、熊本市12.5%、広島市10.1%となっており、遠隔地ほど意向が低くなっている。

肯定的回答が各市とも過半数となっていることから、下関市と北九州市の中心部の距離が近いことは、両市を共に訪問するインセンティブになりうると言えよう。

⑤ 「関門地域」構成の両市への同時訪問を行いたくなる条件

前設問を踏まえる形で、「北九州市または下関市に観光に行く計画を立てる際、現地で時間的な余裕があると仮定します。どのような条件があれば、関門海峡を渡って対岸の下関市または北九州市に「ついでに行ってみよう」と思いますか。最も重要と思うものを2つまで選んでください。」と尋ねた結果を図15に示す。

6市合計で最も多いのは「関門地域の観光・グルメ・イベント等の情報が、インターネットを通じてパソコン、スマートフォンなどで簡単に得やすくなっている」(31.3%)、並んで「関門地域を周遊観光できるような交通環境(地域内のバス、船、鉄道等)が整っている」(30.4%)となっている。前者については、本アンケート調査がインターネット調査のためインターネットを使い慣れている人が調査対象となっていることが背景にあると考える。

関門両市への同時訪問を促進するに際しては、関門地域の観光情報等を様々な媒体を通じて効果的に発信する政策や、域内交通環境の充実に配慮する政策への地域外住民ニーズが高いことを踏まえる必要がある。

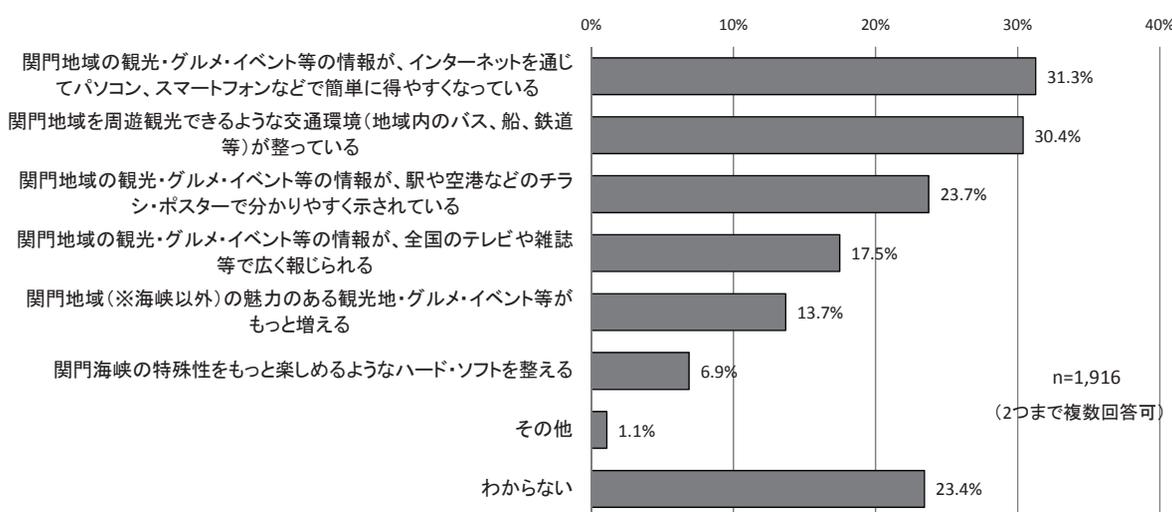


図15 「関門地域」構成の両市への同時訪問を行いたくなる条件(6市計)(回答の多い順に並べ替え)

⑥ 北九州スタジアムへの訪問意向

本研究においては、観光の中でも関門地域ではこれまで十分把握されていないスポーツ・ツーリズムについても着目し、特に定期的に多数の観戦者を集客する装置としてのスタジアムについて、地域外住民の認識等を把握することとした。

北九州市において現在整備中の集客施設として、1.5万人収容の北九州スタジアム（小倉駅から約500mの場所に建設中。）が挙げられる。このスタジアムへの来訪意向を把握する観点で、「北九州市では現在、小倉駅のすぐ近くの市街地中心部に、サッカー・ラグビーなどの球技やコンサート等の各種イベントが開催可能な新しいスタジアム『北九州スタジアム』を建設中です。2017年春から利用可能となる『北九州スタジアム』に、行ってみたいと思いませんか。」と尋ねた結果を図16に示す。

居住市別では、広島市および熊本市では「ぜひ行ってみたい」、「機会があれば行ってみたい」とする肯定的回答が比較的多く、40%台となっている。他4市については、否定的回答が40%台となっている。

その他の主な属性別に見た結果を表14に示す。男女では肯定的回答の傾向に差は無い。年齢別では30代、40代において肯定的回答が比較的高い傾向にある。Jリーグの主な観戦者層は30～40代であり⁶⁾、この世代のスタジアム観戦への意向は他世代より高い傾向にある可能性が指摘できる。また、趣味で「スポーツ実施」または「スポーツ観戦」を選んだ回答者については、肯定的回答が高い。

北九州スタジアムについては、全国からある程度来訪に関心を持たれる施設と言えよう。

⑦ 「関門地域」でのスポーツイベントに対する参加意向

上記(3)⑥と併せ、関門地域におけるスポーツ・ツーリズムの可能性を把握する観点で、「関門地域（下関市、北九州市）で以下のスポーツイベントが開かれるとします。あなたが参加したい、あるいは観戦したいと思うスポーツイベントをすべて選んでください。」と尋ねた結果を図17に示す。

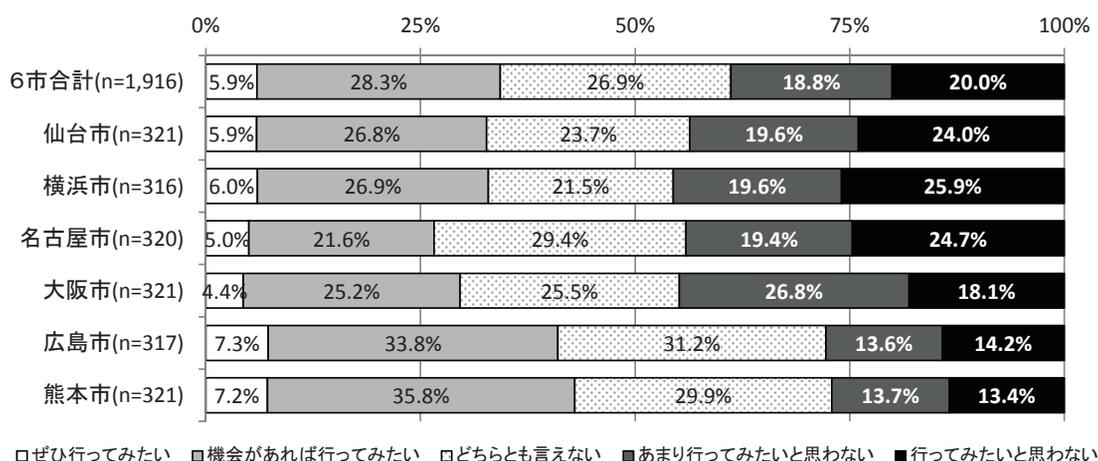


図16 北九州スタジアムへの訪問意向（居住市別）

表 14 北九州スタジアムへの訪問意向（主な属性別）

	回答者数 (人)	ぜひ行って みたい	機会があれば 行ってみ たい	肯定的 回答計	どちらとも言 えない	あまり行って みたいと思 わない	行ってみた いと思わな い	否定的 回答計	
									回答者合計
性別	男性	1,014	6.5%	28.3%	34.8%	30.0%	16.7%	18.5%	35.2%
	女性	902	5.3%	28.4%	33.7%	23.4%	21.2%	21.7%	42.9%
年齢別	20代	122	9.0%	26.2%	35.2%	23.0%	20.5%	21.3%	41.8%
	30代	287	5.6%	31.4%	37.0%	23.0%	17.8%	22.3%	40.1%
	40代	552	6.3%	30.4%	36.7%	27.5%	14.9%	20.8%	35.7%
	50代	518	5.4%	28.4%	33.8%	26.4%	19.1%	20.7%	39.8%
	60代	351	5.4%	23.4%	28.8%	29.6%	23.9%	17.7%	41.6%
	70代以上	86	5.8%	27.9%	33.7%	32.6%	22.1%	11.6%	33.7%
趣味(抜粋)	スポーツ実施	145	9.7%	35.9%	45.6%	29.7%	10.3%	14.5%	24.8%
	スポーツ観戦	271	5.9%	39.5%	45.4%	28.4%	16.2%	10.0%	26.2%

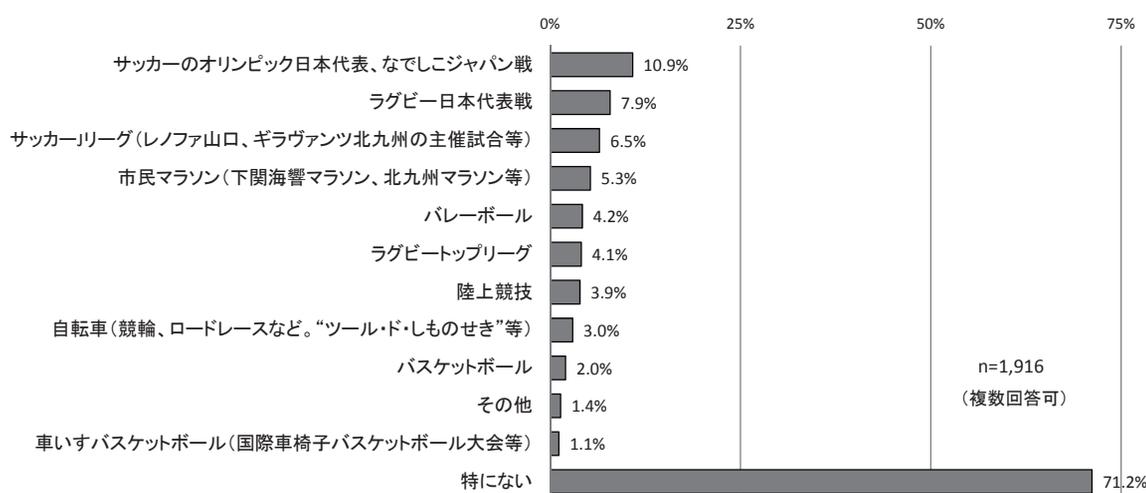


図 17 「関門地域」でのスポーツイベントに対する参加意向（6市計）（回答の多い順に並べ替え）

「特になし」とする回答者が71.2%と大半を占めるものの、「サッカーのオリンピック日本代表、なでしこジャパン戦」（10.9%）、「ラグビー日本代表戦」（7.9%）、「サッカーJリーグ（レノファ山口、ギラヴァンツ北九州の主催試合等）」（6.5%）、「市民マラソン（下関海響マラソン、北九州マラソン等）」（5.3%）などのイベントが比較的多い回答を集めている。全国的に人気の高いサッカーおよびラグビーは北九州スタジアムや下関陸上競技場などで開催可能であり、マラソンは下関海響マラソン、北九州マラソンなどが多数の市民ランナーが参加するマラソンとして実績がある。こうした種目を中心に、関門地域のスポーツ・ツーリズムの可能性を検討していくことが今後の課題として考えられる。

(4) 関門地域に対するイメージ

「それぞれの言葉（形容詞）について、関門地域のイメージに当てはまるものをお答えください。」として、15組の対になる形容詞を提示して、対ごとに5段階でどちらの言葉に

イメージが近いか、回答を求めた。そして、ポジティブなイメージに最も近い点数を1点、ネガティブなイメージに最も近い点数を5点とし、回答の平均点を求めた。

6市合計の形容詞群ごとの平均点について、平均点が小さい(=ポジティブなイメージが強い)順に並び替えたものを図18に示す。「美しい」「特色豊かな」「親しみのある」「安全な」「快適な」「変化に富んだ」といった形容詞がイメージされ、また「寂しい」「古い」といった言葉も併せてイメージされている傾向がうかがわれる。

関門地域においては、特色ある海峡景観を守るための関門景観条例を両市共同で定めるといった取り組みを連携して行ってきており、「美しい」「特色豊かな」といったイメージが強いことは、こうした取り組みが成果を挙げている可能性がある。一方で、「古い」「寂しい」については、実際に人口減少が続いている両市のイメージが反映されているものと思われる。

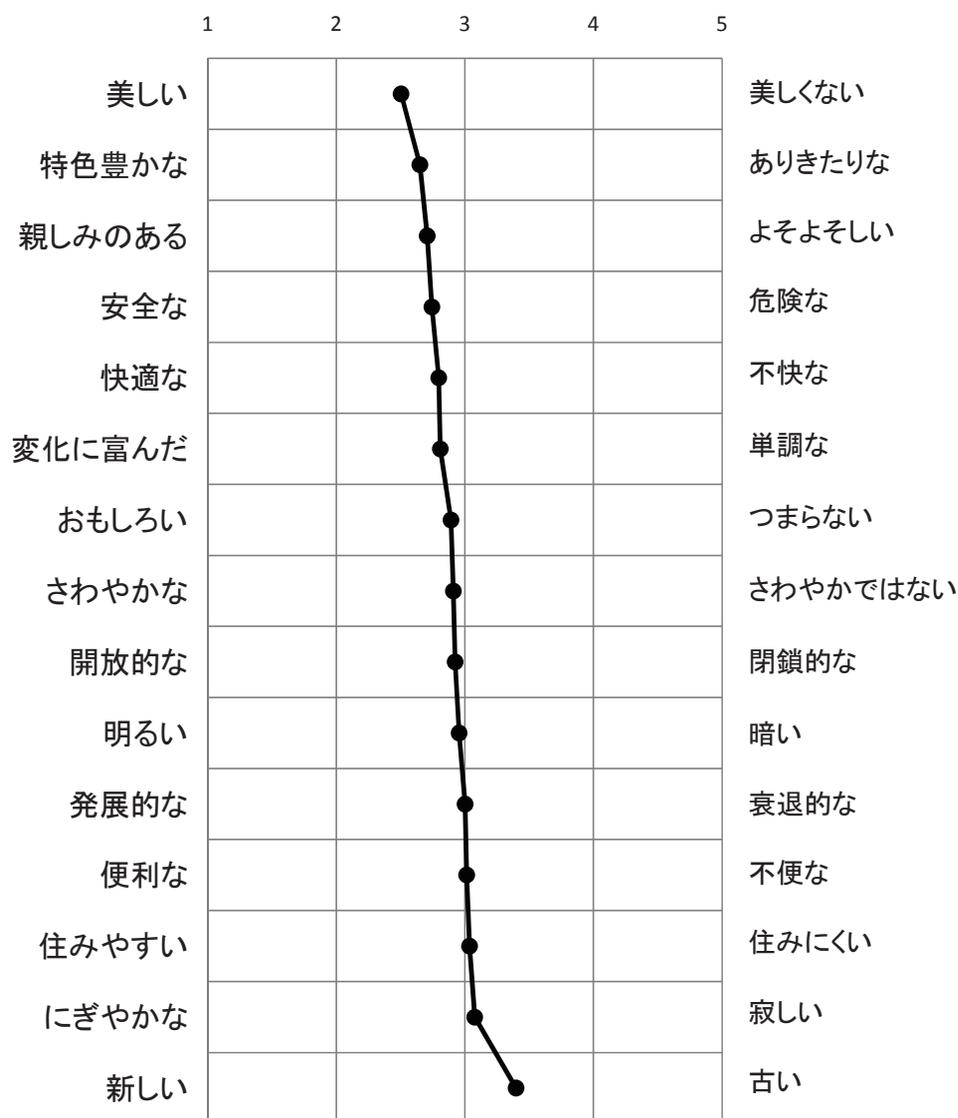


図18 「関門地域」に対するイメージ(6市計)(平均点順に並べ替え)

今後の観光政策の検討に際しては、こうしたイメージを持たれていることを踏まえる必要がある。ポジティブなイメージを伸ばし、一方でネガティブなイメージについてはそれを払しょくするか、あるいは逆手にとって好転させるといった、対外的な都市イメージのPR戦略と併せて実施していくことにより、地域の知名度向上や観光資源の広報に繋がり、また地域住民のシビックプライドの醸成等にも繋がっていくことが期待される。

なお、本設問については回答者の属性別の詳細な分析等が本来は必要であるが、別の機会に行うこととする。

4. おわりに

本研究は、今後の関門地域における観光政策を検討するに際しての基礎資料を得るため、国内他都市の市民の関門地域に対するイメージや観光行動の実態等を把握すること目的として国内6市の住民に対するインターネット調査を実施し、結果を考察した。結果の中から今後の関門地域の観光政策検討に際し、特に留意が必要と考えられる点を表15に示す。

なお、本研究では関門地域に対するイメージ等についての踏み込んだ分析が時間の関係でできなかった。その他、今回の調査データを基にした属性別の観光動態等の詳細な分析の余地も残っている。そうした分析を進めていくことが今後の研究課題であり、また、表15に示す観光政策推進上の課題を解決するための新たな調査研究にも取り組んでいくこととしたい。

表 15 今後の関門地域の観光政策検討に際し、特に留意が必要と考えられる点

	調査項目	今後の関門地域の観光政策検討に際し、特に留意が必要と考えられる点
1	「関門地域」地域の認知状況等	地域外住民の半数強は「関門地域」という名称・概念を知らない（特に若い世代や女性）ことを前提として、政策検討を行う必要がある。また、関門地域の名称を知っていてもイメージしている地理的範囲が一定ではない状況にあり、観光政策や地域ブランド化の検討に際しては留意が必要である。
2	関門地域への訪問状況	関門地域への観光目的の来訪経験のある国民が比較的多く、これまでの官民の観光事業等が一定の成果を挙げてきたと評価できる。 一方、関門地域への観光目的は多様であるため、より詳細に属性別の観光目的の調査分析や、関門地域の他地域と比較しての特長把握などを今後進めていくことが必要である
3	関門地域への交通手段	関門地域への訪問に利用する交通手段は多岐にわたり、今後も多様な広域交通手段の確保や、各ターミナルから観光地までの交通アクセスの整備等に幅広く取り組んでいくことが求められる。
4	関門地域への訪問に際し併せて訪れた周辺都市・観光地	現状でも広域的な観光の一環として関門地域を訪れる観光客は多いことが明らかとなった。観光政策の検討に際しては、関門地域内のみならず、広島都市圏から山口県内、福岡都市圏、および大分県内との観光面での広域連携を意識する必要がある。特に、これらの域外観光地を訪れる観光客の中で関門地域を訪れていない人々は多数にのぼると思われ、そうした人々を関門地域に呼び込むための誘因策を検討することが重要である。
5	行ったことがある観光資源等	門司港レトロ地区や唐戸地区を中心とした関門海峡エリアに集中している観光客を、地域全体への周遊へと導く方策の検討が重要となる。なお遠隔地からは旅行代理店経由のツアー客も多いと思われるため、多様な資源の知名度向上に向けては個人向けの情報発信に加え、旅行代理店向けの情報発信等も重要と考えられる。

	調査項目	今後の関門地域の観光政策検討に際し、特に留意が必要と考えられる点
6	今後行ってみたい観光資源等	「巖流島」や「門司港レトロ地区の歴史的建造物」といった知名度・期待度の高い観光資源が存在することを活かし、他の観光資源の広域的な知名度向上を進めていくことが急務である。
7	今後の「関門地域」への観光での訪問意向	訪問に肯定的な回答者を現在の約60%からさらに向上させることを目標として、様々な方策を講じていくことが求められる。 また、訪問意向が無い理由として「キッカケがない」および「施設や場所を知らない」を挙げる回答者に対しては、効果的な観光PR活動や旅行促進活動が行われれば、訪問に肯定的になりやすいと考えられる。訪問に肯定的な国民を増やすことができる余地は十分にあると言えよう。
8	関門両市を共に訪問するために必要な事項等	関門地域の観光情報等を様々な媒体を通じて効果的に発信する政策や、域内交通環境の充実に配慮する政策へのニーズが高いことを踏まえた対策が求められる。 今後成長が見込まれる関門地域のスポーツ・ツーリズムの可能性を検討していくことが課題である。
9	関門地域に対するイメージ	関門地域は「美しい」「特色豊かな」「親しみのある」「安全な」「快適な」「変化に富んだ」といった形容詞がイメージされ、また「寂しい」「古い」といった言葉も併せてイメージされている。ポジティブなイメージを伸ばし、一方でネガティブなイメージについてはそれを払しょくするか、あるいは逆手にとって好転させるといった、対外的な都市イメージのPR戦略と実施することにより、地域の知名度向上や観光資源の広報に繋がり、また地域住民のシビックプライドの醸成等にも繋がっていくことが期待される。

注

- 1) 「関門地域の未来を考える研究会」は、関門地域の交流・連携の歴史や実績、潜在力、道州制及び地方分権の動向を踏まえ、関門海峡を共有の財産とする両地域の未来を俯瞰することを目的に、北九州市と下関市が共同で2007年12月に設置した。両市長、両商工会議所会頭、両市立大学学長など8名で構成され、計4回の会議が行われた。
- 2) 南ほか(2013)による。
- 3) この設問では、一度の訪問で下関市と北九州市を同時に訪れた場合は「1回」としてカウントするよう回答者に求めた。
- 4) 観光資源については、「行ったことがある資源」の設問と「今後行ってみたい資源」の設問の選択肢は同一であるが、「どこにも行ったことはない」という選択肢については、「今後行ってみたい資源」の設問においては「どこにも行きたくない」に置き換えている。
- 5) 回答者に具体的イメージが湧くよう、設問の注釈として「※電車で約15分(小倉駅～下関駅)、船(門司港～唐戸)で約5分、徒歩(関門人道トンネル)で約15分。」と注釈を付けた。
- 6) Jリーグ(2016)による。

参考文献

- 北九州市(2013)「北九州市内在住者および出身者に向けた観光資源調査」
Jリーグ(2016)『Jリーグスタジアム観戦者調査2015サマリーレポート』
西村幸夫編著(2009)『観光まちづくり』学芸出版社
南博、古藤浩、小林隆史、大澤義明(2013)「制度的・地理的隔絶要素に着目した地域間親密度の可視化～関門地域を事例として～」、日本計画行政学会『計画行政』36(4)、pp.49-57
渡辺康洋(2015)「1次交通距離と消費額の関係性」、『日本国際観光学会論文集』Vol.22、pp.103-108.